（別紙様式３）

平成３１年３月１５日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長　殿

住所　　長崎県長崎市尾上町３－１
管理機関名　　長崎県教育委員会
代表者名　　教育長　　池松　誠二　　印

平成３０年度スーパーグローバルハイスクールに係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

１　事業の実施期間
平成３０年４月２日（契約締結日）～平成３１年３月２９日

２　指定校名
学校名　　長崎県立長崎東高等学校
学校長名　　野田　定延

３　研究開発名
世界の「平和と共栄」を目指し、長崎から世界へ漕ぎ出す人材の育成

４　研究開発概要
長崎ならではの３つの視点（国際平和・医療支援・水環境）の１つからグローバルな課題を把握させ、国際平和や相互発展を実現するための手立てを考察させる。　このような研究活動を通して、グローバルリーダーとして必要な資質・能力を育成するためのプログラムを開発し、その研究成果を発信する。目標とする資質・能力を育成するために以下のⅠ～Ⅴの研究開発単位を設定し、研究開発を行う。
Ⅰ　長崎の視点からグローバル課題を考察させるプログラム開発
Ⅱ　グループ型探究学習のプログラム開発
Ⅲ　コミュニケーション力、発信力を育成するプログラム開発
Ⅳ　アクティブラーニングを取り入れた授業を実践するプログラム開発
Ⅴ　英語によるコミュニケーション能力を向上させるプログラム開発
なお、Ⅰ～Ⅲは課題研究として行い、ⅣとⅤは課題研究以外で行う。

５　管理機関の取組・支援実績
（１）実施日程

業務項目	実施日程											
（月）	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
①運営指導委員会開催				○					○		○	
②高大連携推進委員会										○		
③海外語学研修				○								
④学校訪問指導（授業など）		○		○		○	○	○	○	○	○	○
⑤学校訪問指導（生徒発表会）				○					○		○	
⑥研究指定校報告会		○									○	

（２）実績の説明

［ＳＧＨ対象生徒：１年生全員（278 名）、２年生国際科（80 名）、
３年生国際科（81 名）　計 439 名］

①５名の運営指導委員を人選し、年３回の会議を実施。

②連携大学(長崎大学) 7 名、管理機関４名(高校教育課長、参事、係長、指導主事)、指定校２名(校長、教頭)の計１３名で開催。連携大学と指定校との協力体制について確認。

③指定校の生徒１名をシンガポールへ派遣。

④指定校を訪問し、進捗状況の確認及び管理職・担当者との協議。授業を参観し、ＳＧＨ事業が学校全体の取組となっていることを確認。

⑤ＳＧＨ対象生徒 439 名が参加する中間発表会、課題研究発表会、九州ＳＧＨフォーラムに審査員及び指導助言者として参加。

⑥ＳＧＨ等研究指定校の成果普及・啓発のために開催。県内の約 90 名の教員が参加。

６　研究開発の実績

（１）実施日程〈凡例〉○：該当月に実施、△：期間内に複数回実施

業務項目	実施日程											
（月）	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
課題研究基礎講座ⅠⅡ（１・２・３年）	○	○				○	○					
ＳＧＨ講演会及び意見交換会（１・２年）		○	○				○	○				

国内フィールドワーク（１・２年）				○	○							
大学教員、院生・学部生等との意見交換（上段から１、２、３年）		－ △ △	△ △ △	△ △ －	△ － －		△ △ －	△ △ －	△ △ －			
海外フィールドワークⅠⅡ（２年）				○	○							○
海外プレゼンテーション及び模擬国連（２年）								○				△
中間発表会（１・２年）				○			○		○			
課題研究発表会ⅠⅡ（１・２年）											○	
九州ＳＧＨフォーラム（３年）				○								
アクティブラーニング（ＡＬ）研修会			○				○					

（２）実績の説明

業務項目	実施内容
課題研究基礎講座ⅠⅡ（１・２・３年）	①ライティング講座（１年生対象１回） ②プレゼンテーション講座（１年生対象１回） ③パラグラフライティング講座（２年生対象１回） ④英語論文講座（２年生対象１回、３年生対象１回） ※成果の普及として、②と③は他校に公開し７名の教員が参加。
ＳＧＨ講演会及び意見交換会（１・２年）	○長崎大学学長によるＳＧＨ基調講演会［対象：１年全、中３全］ ○大学教員によるＳＧＨ講演週間（6/19～21）［対象：１年生］ 長崎大学の講師 ／ 分野 ／ 参加数 工学部　板山朋聡 教授 ／ 水 ／ 32 熱帯医学研究所院生・留学生 ／ 医療 ／ 61 RECNA 鈴木達治郎 センター長 ／ 平和 ／ 32 水産学部　山口敦子 教授 ／ 水 ／ 33 原爆後障害医療研究所　高村　昇 教授 ／ 医療 ／ 43 熱帯医学研究所　山本太郎 教授 ／ 医療 ／ 47 多文化社会学部　見原礼子 准教授 ／ 平和 ／ 32 環境科学部　飯間雅文 准教授 ／ 水 ／ 29 ○大阪府立大学大塚耕司 教授による講演会［２年生 20 名参加］

<table>
<tr>
<td>国内フィールドワーク（１・２年）</td>
<td>
○１年生（主な連携調査）
<table>
<tr><th>班</th><th>期日</th><th>研修場所
講師</th><th>内　　容</th><th>参加数</th></tr>
<tr><td>全</td><td>6/20</td><td>本校
長崎県立大学小原准教授
河又准教授、張講師、院生等</td><td>フィールドワーク事前研修（講義およびアンケート・インタビュー演習）</td><td>３１</td></tr>
<tr><td>平和</td><td>7/26</td><td>長崎大学 経済学部
井田洋子教授</td><td>講義、留学生と「平和」に関する意見交換会（立命館高校と合同で実施）</td><td>３６</td></tr>
<tr><td>水</td><td>7/30</td><td>長崎大学工学部
板山朋聡教授</td><td>オープンラボ</td><td>３１</td></tr>
<tr><td>水</td><td>7/31</td><td>協和機電工業</td><td>企業訪問、水質浄化等に関する意見交換</td><td>３１</td></tr>
<tr><td>水</td><td>8/2</td><td>長崎大学環境工学部
濱崎宏則准教授</td><td>オープンラボ</td><td>３３</td></tr>
<tr><td>医療</td><td>8/5</td><td>長崎大学熱帯医学研究所</td><td>熱帯医学研究所サマースクール</td><td>４２</td></tr>
<tr><td>医療</td><td>8/8</td><td>長崎大学医学部
永田教授、北山助教、川尻講師
高山コーディネーター</td><td>地域包括ケアオープンラボ</td><td>５０</td></tr>
</table>
○渋谷教育学園渋谷高校との合同ＦＷ［２年生４名参加］
</td>
</tr>
<tr>
<td>大学教員、院生・学部生等との意見交換
（１・２年生）</td>
<td>
○１年生（主なもの）
<table>
<tr><th>連携先</th><th>高校指導者</th><th>助言者（数）</th><th>参加数</th></tr>
<tr><td>長崎大学医歯薬学総合研究科</td><td>一ノ瀬、内田</td><td>安田二朗教授</td><td>２</td></tr>
<tr><td>長崎県保健福祉医療政策科</td><td>内田</td><td>職員(4)</td><td>５</td></tr>
</table>
○２年生（主なもの）
<table>
<tr><th>連携先</th><th>高校指導者</th><th>助言者（数）</th><th>参加数</th></tr>
<tr><td>長崎大学
環境科学部</td><td>野口</td><td>井口恵一朗教授
飯間雅文准教授</td><td>８</td></tr>
<tr><td>長崎大学
多文化社会学部</td><td>濵村</td><td>森川裕二教授</td><td>１５</td></tr>
<tr><td>長崎大学
工学部</td><td>濵村</td><td>板山朋聡教授</td><td>７</td></tr>
<tr><td>長崎大学核兵器廃絶研究センター</td><td>マシュー</td><td>広瀬訓教授</td><td>８</td></tr>
<tr><td>長崎大学
熱帯医学研究所</td><td>上野</td><td>安田二朗教授</td><td>２</td></tr>
<tr><td>ＮＰＯ法人長崎ベトナム友好協会</td><td>濵村</td><td>冨岡勉氏</td><td>４</td></tr>
<tr><td>長崎女子短期大学</td><td>一ノ瀬</td><td>玉記雷太講師</td><td>８</td></tr>
</table>
</td>
</tr>
<tr>
<td>海外フィールドワークⅠⅡ（２年）</td>
<td>
○ベトナムフィールドワーク（参加生徒 12 名）
・平和班：　現地学生との意見交換、戦争証跡博物館等での調査や平和活動家ドク氏との意見交換等（ホーチミン）
・医療班：　長崎大学熱帯医学研究所ベトナム研究拠点での研修、農村地区実地調査等（ハノイ）
・水　班：　JICA ベトナムと連携したハノイ市内河川調査、ハロン湾での水上生活村調査等（ハノイ、ハロン湾）
○アメリカアカデミックツアー（参加生徒４名）
・ニューヨーク国連見学
・ハーバード大学訪問、マサチューセッツ工科大学院生との意見
</td>
</tr>
</table>

	交換およびプレゼンテーション等 ・ウィスコンシン大学オシュコシュ校でのプレゼンテーション、模擬国連、英語論文指導、PBL 授業への参加 ※成果普及として近隣の中学生・保護者等 210 名が参加したオープンスクールで海外ＦＷ報告会を実施
海外プレゼンテーション及び模擬国連（2年）	○高校２年国際科 80 名が、シンガポール国立大学の学生と模擬国連を実施。３グループに分かれて、世界 10 カ国の代表として、Reducing Child Mortality （子どもの死亡率を低減すること）について、約５時間の議論を経て決議案を策定した。
中間発表会（１・２年）	○中間発表会（１年全生徒） 発表会後に実施した生徒自己評価から、「プレゼンテーション力が身についている」（29.7→59.4%）、「リーダーシップやフォロワーシップが身についている」（54.0%→61.7%）といったスキルや意識が４月から向上していることが示された。 ○中間発表会（２年国際科） 英語によるプレゼンテーションを実施
課題研究発表会ＩⅡ（１・２年）	○課題研究発表会ＩⅡ（高１・２年生全員、及び中３が参加） 以下、運営指導委員からの評価（抜粋） ・新規事業として「中間報告会」や「クラス発表会」を事前に取り入れたことで発表のスキルが向上した。 ・研究内容がローカルからグローバルへと統合が図られている。 ・中間評価でテーマの一貫性が十分ではないという指摘があったが、新しく行政担当者からの講演やインタビューを取り入れたことで、社会課題的要素が強まり改善されている。
九州ＳＧＨフォーラム（3年）	○本校が主催し、九州ＳＧＨフォーラムを実施した。九州内のＳＧＨ指定校 14 校のうち 11 校の代表生徒 39 名がプレゼンテーション部門とポスターセッション部門で研究成果を発表した。 ※成果普及として約 600 名の参加者へ研究成果発表やパネルディスカッションにて「ＳＧＨで身についた力」を共有した。
アクティブラーニング（ＡＬ）研修会	○H28 年度からの継続として、熊本大学の川越准教授を指導助言者として授業研究会を２回実施するとともに、授業研究週間（通称：ＡＬ週間）を設けて、全教員がアクティブラーニング型授業の実践に取り組んだ。授業研究会は３年間で通算６回目となった。「書く」ことに特化したＡＬを研究し、「授業改善や指導力向上に努めている」と回答した教員は 100%（昨年度 98.1%、一昨年度 100%）であった。 ○中・高全教員を対象とした授業研究会の概要 ・第５回（6/22）：　研究授業数８、授業研究、教員研修 ・第６回（10/6）：　公開授業数 10、授業研究、教員研修 ○第 66 回長崎県英語教育研究大会を本校で開催し、本校教諭による研究授業と本校 ALT２名による分科会を実施した。 ※成果の普及として、小学校 23 名、中学校 122 名、高校・大学等 131 名へ本校が実践する４技能統合型授業（研究開発単位Ｖに基づく）を発表した。

その他	○第４回高校生国際シンポジウムに高校１年生８名が主催者による審査を通過して発表した。 ○広島 Peace Forum 2018 に２年国際科２名が参加。 ○ルスラン・イエシン ベラルーシ駐日大使が来校し、平和に関する研究発表と意見交換を実施。

7　目標の進捗状況、成果、評価

（1）目標の進捗状況

構想調書　２研究開発の目的・目標（２）目標に掲げた活動指標の進捗状況は以下のとおりである。

最終年度（平成３１年度）に達成する活動指標と本年度の実績

No	活動指標（平成３１年度）	平成３０年度実績
1	①連携を行う海外の大学・高校の数を１０校	８校
	②国内フィールドワークの協力機関を２０機関	１１機関
	③指導者としての大学教員や行政担当者を３０人	３５人
	④協力者としての大学院生や留学生を４０人	２３人
	⑤海外フィールドワークの参加者を８０人	９６人
2	①生徒の課題研究成果の発表回数を国内で年間５回	７回
	②生徒の課題研究成果の発表回数を海外で年間２回	５回
	③国内外で開催されるグローバルな課題に関するコンテスト等への参加者を年間２０人	２６名
3	取組の普及のための本校教員による校外での発表を年間５回以上	５回

（2）評価（成果と評価）

高校1年生：280名						
No.	質問項目	4月	8月	1月	2月	4月からの変容
1	社会に貢献する活動や自分を高めるための活動を行っている	35.5%	50.0%	58.3%	78.7%	**43.2%**
2	将来、留学したり、仕事で国際的に活躍したいと思っている	59.4%	59.6%	54.1%	68.4%	9.0%
3	世界の「平和と共栄」のために積極的に行動したいと考えている	80.1%	75.7%	72.9%	83.5%	3.4%
4	地元長崎に対する興味・関心が高い	76.4%	74.3%	67.3%	80.5%	4.1%
5	世界平和のために貢献しようとする気持ちが高い	76.1%	76.1%	65.8%	84.2%	8.1%
6	グローバルな課題に対しての興味・関心が強い	80.8%	76.5%	68.4%	87.1%	6.3%
7	自主的に学習する姿勢が身についている	66.7%	59.6%	61.7%	79.8%	**13.1%**
8	論理的思考力が身についている	49.3%	55.1%	59.4%	81.6%	**32.3%**
9	世界の現状への理解が深い	47.1%	42.6%	47.7%	84.9%	**37.8%**
10	リーダーシップやフォロワーシップが身についている	54.0%	59.9%	61.7%	77.2%	**23.2%**
11	プレゼンテーション力が身についている	29.7%	41.2%	59.4%	85.3%	**55.6%**

高校2年生：国際科80名						
No.	質問項目	4月	7月	12月	2月	4月からの変容
1	社会に貢献する活動や自分を高めるための活動を行っている	45.0%	49.4%	72.6%	85.0%	**40.0%**
2	将来、留学したり、仕事で国際的に活躍したいと思っている	76.3%	74.7%	78.1%	83.4%	7.2%
3	世界の「平和と共栄」のために積極的に行動したいと考えている	81.3%	78.5%	78.1%	80.0%	-1.3%
4	地元長崎に対する興味・関心が高い	73.8%	73.4%	71.2%	85.0%	**11.3%**
5	世界平和のために貢献しようとする気持ちが高い	80.0%	81.0%	83.6%	90.0%	**10.0%**
6	グローバルな課題に対しての興味・関心が強い	90.0%	87.3%	89.0%	98.8%	8.8%
7	自主的に学習する姿勢が身についている	68.8%	67.1%	79.5%	90.0%	**21.3%**
8	論理的思考力が身についている	65.0%	63.3%	79.5%	90.0%	**25.0%**
9	世界の現状への理解が深い	52.5%	51.9%	87.7%	95.0%	**42.5%**
10	リーダーシップやフォロワーシップが身についている	76.3%	69.6%	90.4%	93.8%	**17.6%**
11	プレゼンテーション力が身についている	60.0%	65.8%	93.2%	92.5%	**32.5%**

高校3年生：国際科81名					
No.	質問項目	高2(4月)	4月	7月	高2(4月)からの変容
1	社会に貢献する活動や自分を高めるための活動を行っている	28.4%	71.1%	57.7%	**29.3%**
2	将来、留学したり、仕事で国際的に活躍したいと思っている	54.3%	68.4%	69.2%	14.9%
3	世界の「平和と共栄」のために積極的に行動したいと考えている	58.0%	81.6%	82.1%	**24.1%**
4	地元長崎に対する興味・関心が高い	63.0%	78.9%	78.2%	15.2%
5	世界平和のために貢献しようとする気持ちが高い	60.5%	81.6%	82.1%	**21.6%**
6	グローバルな課題に対しての興味・関心が強い	75.3%	89.5%	89.7%	14.4%
7	自主的に学習する姿勢が身についている	53.1%	88.2%	91.0%	**37.9%**
8	論理的思考力が身についている	44.4%	71.1%	85.9%	**41.5%**
9	世界の現状への理解が深い	32.1%	71.1%	75.6%	**43.5%**
10	リーダーシップやフォロワーシップが身についている	45.7%	69.7%	91.0%	**45.3%**
11	プレゼンテーション力が身についている	34.6%	63.2%	75.6%	**41.0%**

生徒自己評価（高１）で示されたとおり、特に、１、８、９、１１について年度当初よりも顕著な伸びを示した。また、高２と高３についても年度当初や昨年の数値と比較すると、10%以上の意識の変容があったのは高２で８項目、高３では１１項目全てであった。

ベネッセコーポレーションが実施しているＧＰＳ-Academic（Global Proficiency Skills program：批判的思考力、協働的思考力、創造的思考力を多面的に測るテスト）を 12 月に受検した。ＳＧＨ対象である高２国際科の生徒と全国集計およびＳＧＨ校集計を比較すると、「批判的思考力」「協働的思考力」「創造的思考力」全てにおいて高いことが示された。「批判的思考力」では約６割、「創造的思考力」では７割以上の生徒が到達ラインＡ（高校卒業レベル）以上であった。ベネッセによると、「批判的思考力」では「論理的に組み立てて表現する力」が測られていることから、研究開発単位Ⅲにおいて聴衆に伝わるプレゼンテーションや論理的な英文レポートを作成した成果であると考えられる。また研究開発単位Ⅳにおいて、本年度は「書くこと」をテーマとしたＡＬ型授業を全教科で取り組んだことにも起因すると考察する。

■GPS テスト**総合評価**

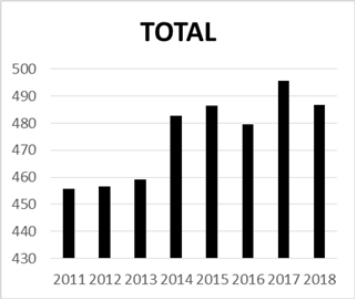
高2 全国集計 22,311名	思考力テスト結果		
	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力
	総合評価	総合評価	総合評価
S	1.0%	0.6%	1.8%
A	30.3%	18.9%	42.4%
B	57.1%	62.4%	47.8%
C	11.2%	16.9%	7.3%
D	0.4%	1.2%	0.7%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

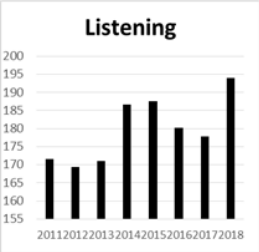
高2 全国SGH 集計 2387名	思考力テスト結果		
	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力
	総合評価	総合評価	総合評価
S	1.8%	0.5%	2.5%
A	36.4%	21.2%	48.9%
B	53.5%	64.8%	42.9%
C	8.2%	12.6%	5.4%
D	0.1%	0.9%	0.3%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

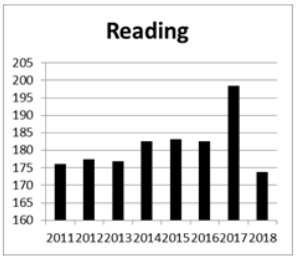
高2国際（70名）	思考力テスト結果		
	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力
	総合評価	総合評価	総合評価
S	2.9%	0.0%	8.7%
A	56.5%	31.9%	62.3%
B	39.1%	63.8%	29.0%
C	2.9%	5.8%	1.4%
D	0.0%	0.0%	0.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

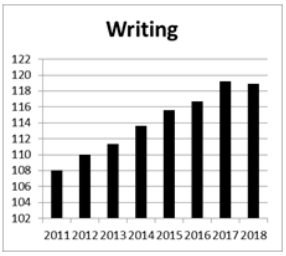
「アクティブラーニングを取り入れた授業を実践するプログラム開発」を推進するために、平成２８年度に再編した新分掌「学び推進部」が中心となり、併設する中学校を含めたすべての教員がＡＬ型授業を実施することを目標として、ＡＬ型授業週間を年間２回実施した。100％の教員がＡＬ型授業に取り組み、100％の職員が授業改善に取り組んだと回答した。

英語によるコミュニケーション能力を向上させるプログラム開発の結果、ベネッセコーポレーションが実施するＧＴＥＣ（高校１年次１２月のＧＴＥＣ for Students 学年平均点）から分かるとおり、アソシエイト指定次の 2014 年およびＳＧＨ指定４年間（2015～2018）のトータルスコアは指定以前の３年間（2011～2013）と比べて高い数値となっている。2018 年度はリーディングの技能は振るわなかったが、過去最高のリスニングスコアを獲得した。また、ライティング力についても過去２番目に高い結果であった。









（３）中間評価からの改善点

①「個々の活動間のつながりがやや弱い」ことに対する改善点

・７月の中間報告会（テーマおよびフィールドワークの計画発表）と１月のクラス発表会を新規に実施し、８月のフィールドワークや１２月の中間発表会と連動性を高めた。

②「テーマの一貫性が十分ではない」ことに対する改善点

・社会課題への関心を高めるために行政との連携を構築し、講演会や研究助言を実施した。

③「外部講師への依存度が大きい」ことに対する改善点

・高１レポート（53 班）の評価を高校教員で全て実施した。

・高２パラグラフライティング講座と英語論文講座を高校教員で実施した。

８　次年度以降の課題及び改善点

（１）教科横断的なカリキュラム開発

平成２８年度から探究学習を学びの軸にした「カリキュラムマネジメント」や「教科横断型授業」の研究開発を進めている。本年度は国語科・地歴公民科・英語科が連動した文献調査や模擬国連プログラムを実施できたものの、さらなる教科での連携が必要である。数学科と情報科が連携して統計・分析を行うなど、課題研究に必要なスキルを複数の教科が連携して育成する取組をさらに進めたい。また、運営指導委員より指摘があった「授業で培った既存の知識を課題研究の中で活用させるしかけづくり」についても研究を進めたい。

（２）教員の資質向上に向けた取組

本年度はＳＧＨ事業を推進するグローバル人材育成部とは別に、総務部や学び推進課がＳＧＨ非対象生徒全員（高２普通科 190 名）の課題研究サポートや、大阪大学での教員研修を受講した。次年度はグローバル人材育成部の人員を増員し、総務部や学び推進部で探究学習のノウハウを今年度蓄積した教員とさらに連携を図り、校内全体で課題研究指導技術の向上を図りたい。

（３）成果の普及のための取組として、「第２回九州ＳＧＨフォーラム」を７月８日（月）に開催する。

【担当者】

担当課	長崎県教育庁高校教育課	ＴＥＬ	０９５－８９４－３３５４
氏　名	岩坪　正裕	ＦＡＸ	０９５－８２４－５９６５
職　名	課長補佐	e-mail	iwatsubo@pref.nagasaki.lg.jp